

全 村 学 校 講 習 会 (上)

——岐阜県恵那郡蛭川村の事例によって——

大 橋 博 明

は じ め に

山崎延吉は学校教育，社会教育，家庭教育の三者が相互に整合し，互助補足の関係になればならないと考えていた。この考えにもとづいて彼は，学校教育に携わるものの立場から，校長を勤める愛知県立安城農林学校の教育方針の一つとして「教育は学校にのみ閉じ込むべきものではなく，社会に延長すべきである」を掲げ，「日露戦争が始まって，国民の精神が緊張し，非常時の決心をする時が来た」のを機にこの方針の本格的な実践にとりくんだ⁽¹⁾。

山崎はこの方針を他の教育機関に押し広めることを望んだが，これにはその前に改められねばならない教育の実情があった。それは他の機関の教育が，彼によれば知育偏重，都会本位の教育であり，彼が課題とする教育，すなわち国家の基礎とみる農村の動揺を防ぎ，農民の生活の行詰まりを打開するために，農民の道を悟らせて確固とした人生観をいだかせ，「技術ト数字（利益……引用者）ヲ超越シテ働ク一種靈妙ナル力」⁽²⁾を発揮させる教育に結びつきえない異質なものであるという実情であった。彼はその改革に努め，初等・中等・実業教育に関して数々の提案をした。また，彼が長を兼ねる愛知県農事試験場と同農事講習所そして彼が幹事の同農会を，課題をめざして運営し，他に範を示した。しかし，教育の実情は彼が期待するようには改まらなかった。彼の目に映った実情は昭和4年においても次のようであった。

農村の小学校教育は久しい間都市の之れと画一的であった。教科書が都市在住の人によりて編纂され、従って教材が都市にとらるゝ事になり、見た所では都市的気分が醸成さるゝ感があった。農業補習学校の設立は奨励されてると雖も、……功果を上ぐるものは極めて少ない。近時、青年訓練所が設立されたりと雖も、……其機能を発揚してるが少ない。…従来最も振はざりしは農学校であり、……中等学校は中学校と高等女学校であるの観がある。……農会は到处農民教育に努力して居り、……技術の指導をやって居るが、其処に出席して教を仰ぐもの、指導者に就て啓発せむとするものは、所謂九牛の一毛に過ぎないのである。農事試験場も、……農民の啓発に努力しているが、之亦靴を隔てて足をかくの感がある。農事講習所は一時各府県に設立されたが、今日は殆んど形骸を止むるに過ぎぬ。⁽³⁾

彼にとって既設機関のこのような実情の教育は、たとえ社会に延長されても、なんの意味も持たないものであった。

山崎は既設の教育機関に頼らない農民教育の方法を考えねばならなかった。これに関して、大正4年11月の山形県自治講習所の設立は、彼の立脚基盤を学校から社会へ移し、農民教育への新たな取組みを可能にする契機となるものであった。彼は同講習所の講師となり、その発展を支援するとともに、全国各地での講演活動にさらに力を注いだ。9年11月には従来の公職をすべて辞任し、以後公職を避けて自由な立場で主に次のような教育活動にとりくんだ。すなわち、一方で日本国民高等学校の設立（昭和2年2月開校）に参画して講師となり、大正15年1月以後愛知県種畜場（12年8月設立、私立）の実習生教育を立案指導して、これを国民高等学校式の教育機関に育て、昭和4年4月に神風義塾を設立し、他方で修養団愛知県支部の活動を支部長として指導し、この活動から生まれた全村学校講習会、そしてそれと受講者が男女青年であること以外は全く同様の講習会である農（民）道講習会を全国各地に押し広め、講師として活動した。

全村学校講習会は男女青年を中心に全村民を対象とし、短期間に集中的に教育訓練を行うものであり、山崎が主張し、実践していた教育の方法、

すなわち学校、社会、家庭の三者を結び合わせ、時間と金をかけず、形式や規則に囚われず、精神的に与えるものが多い教育の方法を整備充実し、しかも至る所で一度に多くの人々を教育することを可能にしたものであった。

本稿は岐阜県恵那郡蛭川村で開催された二回の全村学校講習会の事例によって、全村学校講習会が村民に与えた影響を把握し、その意義を理解するために次の事柄を考察することにする。

- 1 全村学校講習会の成立
- 2 蛭川村における開催の背景と過程
(以下 次号)
- 3 教育の内容
- 4 村民への影響

注

- (1) 山崎延吉著 『我農生回顧録』 山崎延吉全集刊行会 昭和10年 82, 83頁。
以下山崎に関する注のない記述は、拙稿「日本における農本主義教育論の研究Ⅱ」(『中京大学教養論叢』, 第14巻第1号, 昭和48年) による。
- (2) 吉地昌一編 『我農生三十年興村行脚』 山崎先生還暦記念刊行会 昭和7年 53頁。
- (3) 山崎延吉, 稲垣稔著 『農村の新教育 全村学校』 泰文館書店 昭和4年 6, 7頁。

I 全村学校講習会の成立

修養団本部は、大正4年8月以後毎年文部省、内務省、農商務省、開催地の県郡当局などの支援をえて、農村青年の指導者を養成するために、講師と受講者が寝食を共にする天幕講習会を開催した^①。この講習会は、生涯地方自治の振興と地方青年の指導にとりくみ、修養団の活動に協力した小尾晴敏が、大正3年8月に当時静岡県安倍郡郡長であった田沢義鋪が軍隊の天幕を借りて行った、合宿による郡内青年団幹部養成のための講習会に、自治訓練のための配慮を加え、これを一つの幕舎で家、3・4の家で組、全体で村を構成し、村内に役場、学校、病院、郵便局、産業組合などを置き、村会を開くという形式にしたものであった。講習内容は、修養団

が標榜する流汗鍛錬，同胞相愛という主義に沿った，修養鍛錬的色彩の濃いものであった。⁽²⁾

愛知県からは，大正6年8月の第3回講習会に安城農林学校生徒の近藤廉平，7年8月の第4回講習会に安城農林学校生徒の権田照次と愛知第二師範学校生徒の杉原弥市郎が出席した。彼等が修養団への入団を鼓吹したことにより，わずかの期間に県下で700名余が入団し，8年5月に修養団愛知県支部が設立された。支部長には山崎延吉が推され，事務所は安城農林学校に置かれた〔10年2月に支部幹事長杉原弥市郎宅（知多郡野間村）に移された〕。⁽³⁾

愛知県支部は，まず大正9年8月20—26日に，「県下に修養団を紹介して青年の自覚ある活動と精神的結合とを促さんため」に洗心講習会（知多郡野間村），次いで10年7月27—30日に自治講習会（南設楽郡長篠村），11年8月22—28日に「思想問題，宗教問題，社会問題，生活問題，農事問題を明かにして，流汗鍛錬，同胞相愛の実動により献身奉公の臍を固める」ために奉公講習会（中島郡大里村）を開催した。⁽⁴⁾

奉公講習会の講師と演題は次のようであった。

正科	思想問題	東 帝 大 教 授	笥 克 彦
	宗教問題	総 持 寺 貫 主 曹 道 派 管 長	新 井 石 禅
	生活問題	生 活 改 善 同 盟 会 理 事	宮 田 修
	社会問題	貴 族 院 議 員	二 條 厚 基
	農事問題	帝 国 農 会 幹 事 長 修 養 団 本 部 評 議 員	山 崎 延 吉
専科	奉 公	名 古 屋 存 養 社 社 長	安 藤 秋 三 郎
	誓之御柱	名 古 屋 新 聞 記 者 修 養 団 愛 知 県 支 部 幹 事	亀 山 半 眼
	体 育	息 心 調 和 法 皆 伝 者 修 養 団 本 部 賛 助 員	坂 本 喜 太 郎
科外		近 江 新 報 記 者	山 上 利 三 郎
		愛 知 県 知 事	川 口 彦 治
		愛 知 県 警 察 部 長	水 上 七 郎
		愛 知 県 学 務 課 理 事 官	別 宮 秀 雄
		陸 軍 大 将	大 迫 尚 道

これらに加えて、大正9年10月に設立され、修養団愛知県支部の中核をなす碧海郡支部も10年8月1—5日に愛知県中堅青年臨海講習会（碧海郡大浜町）、11年8月10—14日に愛知県中堅青年向上講習会（碧海郡矢作町）を開催した。⁽⁵⁾

ところが修養団本部は、団を撫育してきた渋沢栄一が副会長に就任した協調会が、大正8年12月に設立されると、都市勤労青年の教育に力点をおいた。この結果12年には青年団指導者が講習会講師から退き、受講者も大多数を占めていた師範学校や農林学校の生徒、青年団幹部、小学校教員が都市勤労青年に比して少なくなった。⁽⁶⁾ このような本部の動きは農村青年の指導者たちの期待に背くものであった。修養団碧海郡支部理事稲垣稔は「何時までも流汗、相愛でもあるまい、私は百姓ではないか、……百姓の真実性を抱いた講習はないものか」と思い、本部幹事長後藤静香を訪ね、農村における講習会のあり方について考えるところを述べ、意見を求めた。しかし後藤は稲垣の考えに共鳴はしたものの、講習会の具体案を示すことができなかった。そこで稲垣は自ら方針をたて、案をつくって向上社⁽⁷⁾社員に諮り、「修養団幹部の中に、農村を理解する人のないのを思い、其の方面は自分が受持つ可きもの」と考えていた山崎の同意と助力をえて、彼等とともに12年2月から、8月開催の講習会の準備にとりかかった。⁽⁸⁾

講習会の概要は次のようであった。⁽⁹⁾

講習会名と主催者

農村文化講習会 修養団愛知県支部

開催の方針

純農民によって立案運営する。

受講者は農家に合宿する。

農閑期を利用する。

女子も参加させる。

講師には農民の慈父的人物を選ぶ。

講習に文化的娯楽、割烹指導、農民芸術を加える。

会計の独立を図り、終了後ただちに公表する。

男子受講者の制服（黒のシャツとパンツ）を定める。

流汗作業は百姓味を徹底する。

講師と演題

正科	農村と神社	東帝大教授	田中義能
	農政問題	同	矢作栄蔵
	農業経済	同	那須皓
	田園の美	慶大教授(内務省嘱託)	国府種徳
	田園の趣味	愛知県都市計画課技師	加納力
	農村組織化の概要	新愛知新聞主事	桐生政治
	我が国家と農村		山崎延吉
	農家と割烹	農村料理研究家	寺田幸吉郎
科外	農民と軍隊	陸軍中將	山田虎夫
	講習会に臨みて		別宮秀雄
	農業と無所有	一燈園当番	西田天香
	息心調和法		坂本喜太郎
	農村と宗教	宗大教授	椎尾弁匡
	農村青年の行く道		安藤秋三郎
	農民娯楽	働く会会長	峰田一步

役員と事務分掌

会長 山崎延吉

主事 碧海郡長 板津森三郎

理事 30名

総務(6), 日報(6), 案内(2), 接待(4), 通信(3), 衛生(2), 会場(2), 会計(2), 娯楽(1), 炊事(2)の各部を置く, () 内は担当理事数。炊事部は講師, 来賓, 役員の炊事のみを担当。

県別受講者数

申込み者は定員100名を上回る180名であった。入選の結果, 愛知 141名, 静岡 7名, 三重 5名, 岐阜 5名, 福島 2名, 鹿児島, 兵庫, 滋賀, 新潟, 宮城 各 1名, 計 165名(内, 女子9名)が受講した。受講者は献身区(16家), 流汗区(14家), 相愛区(15家), 女子部(2家)に編制され, 46戸の農家および昌福寺に分宿した。

会費

1名につき8円。

日程

8月27日

午後2時 集合, 受付。

4時 開会式(開会の辞, 君が代斉唱, 五箇条の誓文奉読, 会長訓辞, 開会までの経過報告, 来賓挨拶, 「心の力」朗誦⁽¹⁰⁾, 弥栄三唱, 閉会の辞)。
受講上の注意 夕食。

7時半 科外講話(公開), 日記, 感想文(日報部に提出)。

10時半 就床。

8月28日—9月1日

午前4時 起床，各家の炊事および美化作業（女子の半数は炊事部において炊事）。

5時 集合，参拝，各家1名は文化講堂（小学校）の美化作業，他は他所の美化作業または水浴，国民体操。

6時半 講話。

12時 食事，午睡，美化作業（女子は割烹実習または農作業）。

午後4時 講話，食事。

7時半 科外講話または文化的娯楽（ともに公開），日記，感想文。

10時半 就床。

9月2日

起床以後の日課は前日に同じ。

午前11時 閉会式（開会の辞，朗誦，五箇条の誓文奉読，証書授与，会長訓辞，受講者宣誓，弥栄三唱，閉会の辞）。

12時 食事，美化作業，茶話会。

会場

開会式と閉会式 野田八幡宮境内

受講者の食事 宿主宅

参拝 野田八幡宮

国民体操 野田八幡宮境内

講話 野田小学校

科外講話または文化的娯楽 昌福寺

茶話会 野田小学校

以上のように修養団の講習会を農民の手による農民を対象とする講習会に模様がえしたこの農村文化講習会は，新奇な試みのために，地元民の中には協力を拒むものもあり，壮士の妨害もあったとのことである。しかし成功裡に終り，各地の農民指導者の注目を浴びた。⁽⁴¹⁾

次いで修養団愛知県支部によって大正13年2月20—24日に寒期剛健講習会（碧海郡旭村），8月15—19日に拓殖講習会（西春日井郡山田村）が開催され，9月20—24日に^{国本確立}洗鍊講習会（福島県安達郡戸沢村）が開催された。洗鍊講習会は農村文化講習会を受講した本多耕三の主唱により開催された。同会は開催者が修養団ではなく，本多が属する戸沢村青年団であったこと，正科講師が山崎（国本確立），実農家松本喜作（農家の経済），

寺田（農家と割烹）、稲垣（生活の表現）であり、山崎を中心とし、稲垣他若干名に限られたこと、したがって講習会が山崎の独壇場となったこと、戸主、主婦、処女のそれぞれを対象とした特別講座が開かれたことなど、新たな特色を備え、以後の講習会の原形となった。⁽¹²⁾ 以後このような講習会は、修養団のみでなく、青年団、農会、村当局、教育会などにより、全村民を対象として開催されるようになり、山崎の農民指導の活動と相まって各地に広まった。

このような講習会に全村学校という名がつけられたのは、山形県西村山郡西山村の農民設楽秀次（山形県自治講習所出身）の発案によった。彼は稲垣に指導を乞い、大正13年秋に講習会の開催に着手し、14年3月26—30日に西村山主催、西村山郡の農会と教育会の後援による農村振興講習会を実現した。同会は青年、処女、戸主、主婦に信用組合員を講習対象に加え、会運営費を村当局のみでなく信用組合、青年団、処女会、在郷軍人分会が負担するという全村的で公的な性格を備えたものであった。このとき彼はこのような講習会を全村学校と呼ぶように提案した。これを山崎が採用し、以後同様の講習会はすべて全村学校と呼ばれるようになった。⁽¹³⁾

注

- (1) 修養団出版部編『蓮沼門三論』修養団出版部 昭和50年 89—93頁。熊谷巖治郎著『蓮沼門三をめぐる青年活動家たち』修養団 昭和52年 11, 12, 19, 20頁。足立浩著『松原湖畔における修養団天幕講習』修養団 昭和52年 45, 46頁。講習会は大正14年以後学校、神社、寺院などを借用して行われ、天幕は使用されなくなった。
- (2) 修養団出版部編 同上書 92頁。足立著 同上書 12, 40, 41頁。田沢は修養団の講習会を第1回から指導し、本部の評議員、賛助員、理事として団に関わった。「修養団運動七十年史」編纂室編『修養団運動七十年史(稿本)』昭和51年 36, 37頁。
- (3) 『奉公講習会記念写真帖』、『農村文化講習会記念写真帖』、稲垣稔氏蔵。
- (4) 『奉公講習会記念写真帖』。
- (5) 『愛知県中堅青年臨海講習会記念』、『愛知県中堅青年向上講習会記念写真帖』、稲垣氏蔵。山崎、稲垣著 前掲書 68, 69頁。
- (6) 大霞会編『内務省史』第3巻 地方財務協会 昭和46年 385頁。「修養団運

動七十年史」編纂室編 前掲書 39頁。

- (7) 向上社（大正12年9月以後清明社）は修養団の綱領（想は慈悲を本願とし未来を目的とす 識は徹底を本願とし妙力を目的とす 行は向上を本願とし功德を目的とす）に則るとともに、三遠主義（思想は高遠に 知識は深遠に 行為は宏遠に）の体頭に努めて、各自の向上を実現し、これを四周に波及させようとする碧海郡の青年により、大正11年1月に山崎延吉を主宰者として組織された。同社は月刊誌『青明心』を刊行した。山崎延吉筆「向上社を解散するに就て」（草稿）稲垣氏蔵。
- (8) 山崎，稲垣著 前掲書 69頁。山崎著 前掲書 171頁。
- (9) 山崎，稲垣著 前掲書 70—87頁。『農村文化講習会記念写真帖』。
- (10) 「心の力(心力歌)」は、成蹊実務学校校長中村春二が大正2年秋に法華教研究の第一人者で古今東西の聖典にも通じた同校幹事小林一郎に委嘱してつくらせた、精神力の偉大さをうたった朗誦文である。これは、中村が案出し、必修としていた「凝念」の際、教員と生徒の全員によって朗誦された。「凝念」は、毎日授業前30分ほど無念無想の状態で静座し、注意を集中する力を鍛えるものであり、夏には綿入凝念、冬には裸体凝念も課された。中村はこれを、各地の教育会や中央報徳会などの求めに応じて、4年以後校内あるいは出張して講習し、広めた。修養団の講習会にこれがとりいれられたのは、田沢が行った前述の講習会に中村が講師として協力し、受講者にこれを課したことがそのまま受け継がれたことによる。成蹊学園史刊行会編『成蹊学園六十年史』成蹊学園 昭和48年 99, 102, 107, 115, 360, 361頁。後藤文夫編『田沢義鋪選集』田沢義鋪記念会 昭和42年 1096頁。「修養団運動七十年史」編纂室編 前掲書 25頁。
- (11) 山崎，稲垣著 前掲書 84, 85, 91頁。
- (12) 山崎，稲垣著 前掲書 93—96頁。「寒期剛健講習会信の願状」，「拓殖講習会の檄」，『^{国本}洗鍊講習会記念写真帖』，稲垣氏蔵。吉地編 前掲書 188頁。
- (13) 山崎，稲垣著 前掲書 490—495頁。山崎著 前掲書 215, 216頁。吉地編 前掲書 271, 272頁。『農村振興講習会記念帖』，『農村振興講習会日報』，稲垣氏蔵。

山崎の「興村行脚日記」（大正14年1月—昭和7年6月）には彼が関わった全村学校講習会が記されている。それらの開催年月日と場所は次のとおりである。

- | | | |
|---|----------------|-----------------|
| 1 | 大正14. 8. 13—15 | 富山県射水郡片口村 |
| 2 | 15. 1. 12—16 | 岐阜県恵那郡蛭川村（第1回） |
| 3 | 15. 9. 3—5 | 山形県西村山郡西山村（第2回） |
| 4 | 15. 10. 8—10 | 広島県沼隈郡熊野村 |
| 5 | 15. 12. 3—7 | 岐阜県恵那郡遠山村 |

6	昭和 2. 2. 24—28	岐阜県恵那郡加子母村
7	2. 3. 4— 8	福島県伊達郡五十沢村
8	2. 3. 27—31	岐阜県恵那郡蛭川村 (第2回)
9	3. 1. 4— 6	愛知県額田郡豊富村 (第1回)
10	3. 3. 1— 5	岐阜県恵那郡坂下町
11	3. 3. 10—12	愛知県北設楽郡稲橋村 武節村
12	3. 3. 21—24	兵庫県神崎郡中寺村
13	3. 4. 4— 8	岡山県知多郡富貴村
14	3. 12. 2— 4	愛知県額田郡豊富村 (第2回)
15	4. 3. 27—31	岐阜県安八郡仁木村
16	4. 10. 5— 8	兵庫県津名郡生穂町
17	5. 2. 23—25	愛知県南設楽郡鳳来寺村
18	5. 2. 26—31	岐阜県土岐郡明世村
19	5. 3. 3— 5	兵庫県印南郡上荘村
20	5. 3. 8— 9	愛知県海部郡佐屋村
21	5. 3. 27—28	三重県阿山郡山田村
22	5. 4. 4— 6	兵庫県明石郡神出村
23	5. 5. 16—17	愛知県海部郡飛島村
24	5. 5. 28—29	兵庫県印南郡米田町
25	5. 11. 16—17	福島県河沼郡日橋村
26	5. 11. 27—29	福島県伊達郡陸合村
27	6. 3. 24—26	岐阜県羽島郡下中島村
28	6. 12. 7— 9	山梨県中巨摩郡田岡村
29	7. 1. 15—16	兵庫県宍粟郡三方村 下三方村 繁盛村
30	7. 2. 20	山口県田川郡金川村
31	7. 2. 24—27	岐阜県武儀郡倉知村
32	7. 3. 12—14	佐賀県小城郡三里村
33	7. 4. 2— 3	滋賀県甲賀郡大原村
34	7. 6. 25—27	秋田県由利郡西目村

吉地綱 前掲書 119—957頁。

Ⅱ 蛭川村における開催の背景

1. 村内の状況と村民指導者の動き

蛭川村では、いわゆる優良村として明治43年2月に内務大臣から表彰されたとき村長であった額額秋三郎が、大正8年3月の「内務省訓令第94号」によって開始された民力涵養運動が全国的に展開されていた10年4月に、

再び村長に就任した。⁽¹⁾ 当時は、第一次大戦により、わずか数人であった坑夫が100人余に増え、年産20万円（大正4—7年の村の平均歳出16,196円）を越えるモリブデン、ビスマスなどを産出して活況を呈し、村民を一時経済的に潤した恵比寿鉱山が、需要の落込みにより休山した頃であった。⁽²⁾ また大正8年以後、表①が示すように、木材は比較的高値が続いたが、米と繭の価格が大幅に下落し、肥料価格も同様に下落したものの、味噌、醤油、酒など日用品の価格が横ばいあるいは上昇し、村民の経済生活が急激に困難になりつつあった頃であった。

① 収量と価格の指数

	収						入						支 出			
	米（うるちともちの合計）			繭（上・中玉と屑繭の合計）			木			材			米、繭、木材の合計価格	味噌と油の平均単価	酒の単価	油と鰯の平均単価
	収量	価格	単位価格	収量	価格	単位価格	一般木材収量	薪材収量	炭材収量	一般木材と薪材の単価	一般木材の単価	薪材の単価				
大正	6	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	7	89	156	174	92	113	122	126	100	129	110	100	130	127	128	115
	8	96	210	218	89	136	153	74	188	158	180	125	164	181	183	193
	9	107	119	111	70	60	87	44	75	166	276	400	95	191	163	129
	10	92	158	172	76	83	109	40	67	99	189	250	111	182	236	123

米、生糸、木材は『蛭川村統計報告』⁽³⁾ による蛭川村における価格、他は『岐阜県統計書』による多治見町における6月と12月の平均価格。

ところが他面において村は、第一次大戦による経済的社会的変動の影響を受けて、次のような状態にあった。すなわち、村は明治44年以後優良村として表彰された2月25日を村の記念日とし、この日に教育会と農会の総会を開き、榮譽にふさわしい村づくりのための努力を確認し、決意を新たにしてきたが、戦後はしだいにその意欲が薄れた。大正9年には、同年が表彰10周年に当たり、記念日が表彰への村づくりに大きな功績のあった、奥田正道の死後百日祭の前日に当たるにもかかわらず、記念的行事をなんら行うことができず、安弘見報徳社の役員と小学校長そして有志2、3名

が墓参したのみであった。⁽⁴⁾ さらに額綱が、8年3月30日の日記に、「近來村風大に乱れんとするの徴あり，周旋屋の多き，又青年登楼居続け等，聞くこと皆風紀紊乱の徴ならざるはなし」，「之れが矯正の策なくして，只々苦悶するのみ」と記さざるをえないような傾向も生じていた。表彰を榮譽と受けとめ，これを護ろうとする村民指導者にとって，このような状態は放置できないものであり，民力涵養運動推進という任務を課されればなおさらのこと，改善を期さねばならないものであった。

これを改善するために，村長額綱のもとで，大正10年11月に「蛭川村公私改善申合規約」と「蛭川村世務委員規定」が定められ，11年の表彰記念日2月25日に『蛭川村報』が発刊され，村民指導の方針と方法が整備された。「規約」と「規定」は残念ながらともに見当たらない。しかし前者は，大正15年の「改正規約」によって，ほぼどのようなものであったかを推測することができる。

「改正規約」⁽⁶⁾ は祭祀，教養，職業，家計，衛生，育児，教育，礼儀，公德，風紀，救済，匡制を各章とする12章からなり，村民生活の全般にわたって村民が遵守履行すべき生活の方針を示し，「規約」違反者に対しては該区世務委員が忠告訓戒する，この効果がないときには世務委員会の議決による制裁を加える，という指導匡正の方法をとるものであった。「規約」各章の基本的方針は次のようであった。

祭祀 敬神祖信教の念を養い，社寺，教会，墓への参拝を怠らず，村，一家，一身の重要事項は必ず神前，靈前に報告する。

教養 修養訓練に努め，廉恥を重んずるように心懸ける。

職業 農業，養蚕，林業などにおいてなるべく共同経営の方法を採用する。作業能率の増進と年間の労力配分の調整，産物の精良化に努め，収入の増加を図る。

家計 衣食住の状態を整理改善する。正月2日に前年の収支を靈前に報告し，かつ年間予算を定める。貯金に努め，資金融通の基礎を固める。

教育 教育は国民の一大義務であり，義務教育は必ず受けさせる。

礼儀 互に敬愛の念をもって接する。冠婚葬祭は儀式を第一とし，簡素を旨とする。

公德 諸義務を完遂し，時間を確守する。進んで公共の利便に努める。

風紀 互に戒め合い，法規，道徳などに違反する者を出さないようにする。

救済 相互扶助の精神を体する。生活に苦しむ者に対しては該区世務委員が相当の

救済方法を講ずる。
衛生，育兒，匡制は略。

世務委員は、額額の説明によれば、「能く受持区内又は受持団体の事情を注意調査し、……或は産業を奨め、教育を進め或は精業善行者の推奨、不幸者の救済等普通機関に於て調査の不充分又は宣伝の行き届かざる諸点に就て細心の留意を加へ以て村当局施政の方策に資し村民諸氏の了解を求むる等、村治の円満を図り以て謂所共同緝睦実を挙げ一村全体愉快にして幸福なる生活の状態に進めることを役割とするものであった。⁽⁷⁾

『蛭川村報』は、発刊日そして第1号の最初に掲載された「蛭川村として永久に忘るべからざる記念日」という記事が示しているように、表彰当時のような、質実で緊張し、共同一致して課題にとりくむ村民を育成しようとする村当局＝額額の、村民指導の媒体として企図されたものであった。

蛭川村では大正11年7月から大同電気株式会社の大井発電所ダム建設工事がはじまり、村民は再び「其レニ出役スルモノ多ク殊ニ其賃錢又安カラズ聞ク処ニヨレバー区一ヶ月ノ収入一千円（11年の村の粳米価格 1石26円…引用者）以上ニ達スルモノ数区アリ」という臨時収入をうるようになった。⁽⁸⁾ しかし、11年は「晩秋蚕の失敗、米価の低落等にて、一般の経済状態は意外に不景気」であり、「益々金融逼迫シテ窮状ヲ示シ之ニ反シ日用購買品ハ比較的高価ナルヲ以テ一層家計困難ノ状態ニ立迫」った。⁽⁹⁾ これに対して額額は12月に、各区長に「各位ハ村民諸氏ト相謀リ益々勤勉努力ノ能率ヲ高メ以テ家庭ノ収入ヲ増加シ一面ニハ出来ル限り相互ニ消費節約ニ意ヲ注キテ失費ヲ防キ以テ現今ノ究態ヲ変化ナク維持経過スベク様一段ノ御配意ヲ以テ可然区民諸氏ト御協議相成我村ノ福利増進ヲ計ラレ度切ニ希望スル処ナリ」,「此工事（ダム工事…引用者）タルヤ永久的ノモノニアラズシテ今後一二年ニシテ工事完成スルモノナレバ其間ニ於ケル収入ハ可成消費節約ヲナシテ蓄積シ生活改善ヲナシテ家庭ノ安全ヲ計ル資ニ充当セラル、コトニ適當ノ御指導アランコトヲ望ム」と指示した。⁽¹⁰⁾ そして12年2月の世務委員会に、協議研究事項として「生活改善消費節約ノ主旨ニ依リ勤儉貯蓄申合規約改正ノ件」,「大同会社水電工事出役者ノ貯金奨励ノ

件」,「財政整理ノ為メ止ムヲ得ズ土地建物等売却ヲナスモノニ相当援助ヲ与フルノ件」,「副業奨励ノ件」などを提案した。⁽¹¹⁾ これにより明治37年5月設定の「蛭川勤儉貯蓄申合規約」が「蛭川村公私改善申合規約」にもとづいて大正12年2月に改正され,あわせて「蛭川勤儉貯蓄申合規約細則」が定められた。そして区長と世務委員により,村民に対して,労働能率を高め,余暇を副業に充て,節儉貯蓄をすることによって農家経済の行詰まりを打開するという「規約」と「細則」の趣旨の理解の徹底が行われ,8月から実施された。⁽¹²⁾

しかし表②のような物価の推移,大正13年12月のダム工事の完了などにより,村民の経済状態はさらに悪化し,これに対処するための懸命な努力が重ねられた。当時の記述には次のようなものがみられる。

12年 「関東地方の大震災を始めとし,米穀の減収,晩秋蚕の不況まで可なり難儀な年柄で前古未曾有の事でありました」。⁽¹³⁾

13年 「我村農家ノ経済ハ近来漸次窮境ニ傾キツ、アリ特ニ本年春蚕ノ繭価予想ニ反シ前年同期ニ比シ約四割以上ノ減収ヲ見從テ村内金融ノ不円滑ヲ来シ経済上一層ノ困難ヲ来シツ、アリ」。⁽¹⁴⁾

14年 春以来気候不順のため「人力ノアラン限リノ注意ト努力ヲ以テ天然ノ不順ヲ補」う指導と「各養蚕組合ノ共同一致ノ活動」を促す指導が区長会を通して行われた。この結果「養蚕ハ近年稀ナル好成绩ヲ挙げ,又米作其他ノ作物ニ於テモ著シキ減収ヲ見ズ殆ド平年作ニ近キ成績」を収めることができた。⁽¹⁵⁾

村内金融に関しては,大正12年4月に設けられた蛭川信用組合があったが,「組合ニ於ケル融通資本ハ未ダ頗ル少額ニシテ到底組合員ノ要求ヲ充タスヲ得サル」状態(13年)にあった。そこで13年7月以後,区長と世務委員を通して,なるべく組合に加入して出資するように,さらに銀行,郵便局などの預貯金をできるかぎり引出して組合に預けるようにという指導が行われた。⁽¹⁶⁾

各戸の収入の増加方法に関しては,米麦作,蚕業,林業の改良のみでなく,やはり副業が奨励された。大正14年11月には「勤儉貯金申合規約細則

② 収量と価格の指数

	収						入						支 出		
	米（うるちともちの合計）			繭（上・中玉と屑繭の合計）			木 材			米、繭、木材の合計価格			味噌と油の平均単価	酒の平均単価	油粕と鮮魚の平均単価
	収量	価格	単位価格	収量	価格	単位価格	一般木材の収量	薪炭の収量	一般木材と薪炭材の単価	一般木材の単価	薪炭材の単価	炭材の単価			
大正															
6	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
8	96	210	218	89	136	153	74	188	158	180	125	164	181	183	193
12	97	136	140	77	116	150	77	108	158	156	250	128	137	179	132
13	94	156	166	81	94	117	80	104	147	137	250	122	159	204	156
14	95	146	153	102	150	147	76	88	127	123	263	146	244	195	134
15	110	123	112	111	123	111	96	92	126	96	250	124	220	212	109
昭和															
2	99	105	105	138	112	81	94	92	135	110	250	113	220	204	105

米、生糸、木材は『蛭川村統計報告』による蛭川村における価格、他は『岐阜県統計書』による多治見町における6月と12月の平均価格。

「種々副業ノ種目ヲ定メアルモ之カ普及ナシ居ラサル」状態（14年）を改善するために、戸主会と婦人会に実行業種を決めさせて村当局に報告させ、実行させることが区長会と世務委員会において協議され、実施された。⁽¹⁷⁾

節儉に関しては、区長と世務委員を通して、婚礼、祝賀、葬儀、盂蘭などの簡素化、予算生活と現金主義の励行が常に指導された。⁽¹⁸⁾

他方ではこのような具体的で実質的な方策にあわせ、これらが根づく精神的土壌をつくるための教化活動が展開された。教化活動に当たったのは、額額をはじめとする村当局者、小学校教員、区長、世務委員であり、神国教教長井口丑二であった。彼等にとって大正12年11月の「国民精神作興ニ関スル詔書」は、彼等の活動にこの上もない拠りどころを与えるものであった。

額額は「詔書」を契機として、「挙村一致不撓不屈の精神に鞭撻を加へ、自己の事家庭のこと村の事に就いて反省をなし、積弊を一洗し、風紀は愈々革め、奢侈を斥けて冗費を節約し、所謂華を去り実就いて質実剛健の

気風を養ひ肅然として相戒め互に協同一致して民力の涵養を図り村の向上に勉め国家の興隆に資」することが、「大御心に尊ひ奉る唯一の道であらうと確信する」という論法を用いて、機会あるごとに村民に説諭し、区長、世務委員などを通して、個々の村民にきめこまかに働きかけた。⁽¹⁹⁾

井口は大正12年6月に教化団体である神国会を設立し、文部大臣より財団法人の認可を受けた。会は「日本神国ノ大道ニ基キ万世一系国体ノ淵源忠行一本（ノ……引用者）国民性ノ由来ヲ闡明シ忠君愛国敬神崇祖ノ精神ヲ鼓吹シ公私道德ノ向上風俗改良生活改善ノ実行ヲ奨励スルヲ以テ目的トス」るものであった。理事長には井口、理事には額綱、助役田口専一、他3名が就任した。⁽²⁰⁾ 常に政府の施策推進のための民衆教化を自らの任務としてきた井口は、「詔書」が渙発されると、ただちにこれの実践躬行を徹底させるための教化活動に従事した。彼は次のような歌詞の「^{聖旨}_{奉体}国民精神歌」を13年2月につくり、単に蛭川村、岐阜県のみでなく、13年に愛知県、静岡県、長崎県など、14年に愛知県、兵庫県などで講演活動を展開した。これにより会は、14年2月に内務大臣より助成金200円を与えられた。⁽²¹⁾

前略

五 安きになるゝ人心 おごり高ぶる己がじゝ 邪説縦横付和雷同 罪過は天に蔓りぬ

六 天意は深し大地震 大地は砕け海は飛ぶ 猛火は狂ふ四里四方 帝都一朝焼野原

七 聖主宸憂浅からず 切に慈訓を垂れ給ふ 今この時に起たずんば 国歩至難をいかにせむ

後略

2. 蛭川中堅青年講習会

内務省と文部省は、大正9年1月の「青年団体ノ内容整理並実質改善方」（内務省訓令）と「同」（内務次官通牒）において、青年団体は自治的に運営されるべきものであり、その役員は、従来のように小学校長、市町村長、名望家などからではなく、団員から選出されることが原則であるという方針を示した。⁽²²⁾ 岐阜県はこれにもとづいて9月に「青年団体規約準則」（岐阜県令甲第46号）を定めた。このような政府および県の動きを受けて、恵

那郡では12月2—8日に郡連合青年団主催による第1回恵那郡青年団幹部講習会が小尾晴敏の指導のもとに開かれ、以後毎年開かれた。

講習は修養団の天幕講習会と同様の方式によって行われた。第1回講習会は次のような内容のものであり、蛭川村からは団長林壮二と区部長山田倉造が参加した。⁽²³⁾

講師と演題 ()内は時間数。

正科	青年修養(6)	青年幹部心得(5)	小 尾 晴 敏
	町村自治公民訓練(5)		立 木 郡 長
	青年団体経営(3)		岩 村 郡 視 学
	農家経営(3)		安達郡農会技師
	青年衛生(2)		高木県学校衛生技師
	警察講話(2)		山野部中津警察署長
	剣道指導		熊 田 高 吉
科外	青年団体規約準則に就て		吉 本 県 視 学
	無我		大 迫 陸 軍 大 将
	海		宮 岡 海 軍 中 将

受講者

恵那郡内青年団幹部71名。自治訓練のため受講者を6班に分け、全体で恵那村を構成する。村長、助役、収入役、班長を選挙し、村長は書記2名を指名する。

会場

中津町中村 宗泉寺

蛭川村では、大正9年3月の蛭川村教育会青年部総会において、総裁を除く会長以下の役員が青年部会員から選出され、11月の総会において、県の「準則」にもとづき、「蛭川村青年団規約」(10年3月の総会で改正、「蛭川村交親青年団規約」となる)が定められた。⁽²⁴⁾そして10年2月8—10日に郡の講習会に倣った蛭川中堅青年講習会⁽²⁵⁾が開かれた。受講者は村青年団員から選ばれた中堅団員42名(加茂郡東白川村神土青年団員16名が9日午前11時半から翌日午前8時まで参加)、会場は蛭川村報徳館であった。開催にあたってまず次のような事柄を主な内容とする「蛭川中堅青年講習会出席者心得」が示された。

服装は質素を旨とし、聴講の際は袴を用いること。

下記のものを持参すること。

白米3升、会費50銭、布団1組、毛布1枚、齒磨粉および楊子、塵紙、襦衣、

股引、草鞋または跣、足、袋雑記帳、鉛筆、竹刀1本、茶碗2個、包布1本、箸、手拭1本、平素愛読する書籍2・3冊、「心の力」。

各区の役員は下記の表簿を持参すること。

経費予算、事業規定および成績報告、規約、規約貯金明細調書、役員名簿など。下記の研究問題に関する意見を受講者に指名発表させるから、相当の準備をしておくこと。なお、受講者は他の研究問題を随時提出することもできる。

実業補習学校出席督励方法、継続体育施行方法、青年団経費収入方法、青年に適当な娯楽方法。

指揮者の命令に絶対服従すること。

時間を確守すること。

日程とその内容は次のようであった。

2月8日

午前6時 集合、諸準備。

8時 開会の辞（団長林壮二）、君が代斉唱、戊申詔書奉読、訓示（林壮二）、自治訓練のため講習会を村に擬して安弘見村と名付け、これを4つの区に分かつ。村長、助役、収入役、書記2名、区長4名を選ぶ。村長 林壮二、助役 永治一郎、書記 山田倉造 田口源一郎、収入役 高井深、区長 永治秀逸 額額益三郎 田口不二郎 山田倉造。

9時半 講話 「神国教大意」井口丑二。

11時40分 研究発表 「継続体育施行方法について」種々の意見が出されたが、永治一郎の「今後総ての青年団の会合に於て体育（剣道他の方法）的施設を一つの正科として一定の時間を此方面に与へて人に奨励に努むること」という意見に一同賛成。

12時 食事。

午後1時 講話 「神国教天道の巻」井口。

3時半 遙拝と奉仕の意義について説明ならびに恵那郡青年団幹部講習会の報告 林壮二。

4時 国民体操の仕方の説明 山田倉造。

4時半 講話 「大和民族と武士道」小学校教員 大野栄太郎。

5時 剣道基本動作 大野。

5時40分 食事、自由時間。

6時半 剣道練習 大野。

8時 娯楽懇談 琵琶歌（山田倉造）、ヴァイオリン、マンドリンなどの合奏（永治一郎、田口源一郎、林甲子郎など）。

9時 静座、遙拝、「心の力」朗誦、就床。

2月9日

午前6時 起床、安弘見神社参拝、国民体操。

6時40分 掃除，整頓。

7時 遙拝，静座，朗誦。

7時半 食事。

8時 講話 「神国教人道の巻」井口。

11時 講話 「体育的施設に於ける良法と學術程度を高むる方法について」
郡視学岩村俊郎。

12時 食事。

午後1時 講話 前承 岩村。

1時半 講習会の感想について質問 安弘見報徳社社長 額額秋三郎，これ
に対して林壮二，高井深，田口源一郎，鷺見榮造，永治秀逸，不破加蔵が答
える。講話 「町村施設に就いての心得」額額秋三郎。

3時半 剣道講話と基本動作の練習 大野。

4時半 記念写真の撮影。

4時40分 安弘見村村委会會議規則の説明 前村長田口久夫。

6時 食事，娛樂懇談 謡曲船弁慶，謡曲鉢の木，蓄音機鑑賞。

8時 討論会「我が日本人として和服を可とするか，洋服を可とするか」
議長永治一郎，和服論者33名，洋服論者27名。

9時40分 剣道 大野。

10時 遙拝，静座，朗誦，就床。

2月10日

午前6時 起床，安弘見神社参拝。

6時40分 静座，遙拝，朗誦，食事。

8時20分 講話 「酒の害に就いて」村長桃井英二郎。

9時半 大正9年11月制定の「蛭川青年団規約」の朗読 林壮二。 講話
「蛭川村一般の状況について」田口久夫。

12時 食事。

午後1時 安弘見村村委会開会 議長 田口久夫，書記 林壮二 額額益三郎。

4時 剣道 大野。

6時 食事。

6時半 大正9年11月の「皇太子殿下令旨⁽²⁰⁾」奉読式，茶話会。

以上のように恵那郡および蛭川村の講習会は全村学校講習会と形式において
ほぼ同様のものであった。したがって，蛭川村民，とりわけ上述の講習を受け
た一部の青年にとっては全村学校講習会は必ずしも新奇なものではなかった。

注

- (1) 大霞会編 前掲書 第1巻 341—344頁，第3巻 377，378頁。『額額翁回想
録』（以下『額額翁』と略す）岐阜県恵那郡蛭川村 昭和15年 4頁。

- (2) 西尾彦朗著『体験抄録興村教育の経営』帝国教育会出版部 昭和15年 序1頁。吉地編 前掲書 128頁。蛭川村史編纂委員会編『蛭川村史』岐阜県恵那郡蛭川村 昭和49年 529頁。
- (3) 蛭川村役場蔵。
- (4) 『綴綴翁』142頁。
- (5) 同上書 87頁。
- (6) 『生活改善等の規約集』蛭川村済美記念文庫蔵。
- (7) 『蛭川村報』(以下『村報』と略す) 第3号 大正11年4月25日 同文庫蔵。
- (8) 『綴綴翁』75頁。「大正十一年十二月二十三日区長会協議及示談事項」〔『区長会協議事項綴』(以下『綴』と略す) 蛭川村役場蔵〕。
- (9) 同上(『綴』)。『村報』第12号 大正12年1月25日。
- (10) 同上(『綴』)。
- (11) 「大正十二年二月二十五日世務委員会協議研究事項」(『綴』)。
- (12) 「明治三十七年五月一日設定蛭川勤儉貯蓄中合規約改正案」、「蛭川勤儉貯蓄中合規約細則」、「大正十二年七月二十三日区長会協議示談事項」(『綴』)。
- (13) 『村報』第24号 大正13年1月25日。
- (14) 「大正十三年七月二十三日区長及世務委員会注意事項」(『綴』)。
- (15) 「大正十四年七月二十三日区長会示談事項」(『綴』)。『村報』第47号 大正14年12月25日。
- (16) 「大正十三年七月二十三日区長及世務委員会注意事項」(『綴』)。
- (17) 「大正十四年十一月七日区長世務委員会要項」(『綴』)。
- (18) 同上。
- (19) 『村報』第24号 大正13年1月25日。
- (20) 『霊覚』第1号 新国教本部 大正14年3月 13頁。
- (21) 同上書 12—14頁。
- (22) 熊谷辰治郎著『大日本青年団史』熊谷辰治郎 昭和17年 203、204頁。
- (23) 『済美』第12号 蛭川交親青年団 大正10年12月 14—16, 24—29頁。
- (24) 『蛭川村青年団の歩み』78, 79頁 蛭川村済美記念文庫蔵。『済美』第12号 59—66頁。
- (25) 『済美』第12号 29—35頁。
- (26) 国運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク内外ノ情勢ニ顧ミ恆ニ其ノ本分ヲ尽シ奮励協力以テ所期ノ目的ヲ達成スルニ励ムコトヲ望ム 『済美』第12号。

Ⅲ 開催の過程

山崎延吉はしばしば恵那郡を訪れた。「それは安城農林の同窓生がが五十名近くもあり、而もよく活動している事に引きつけられるから」であっ

た。蛭川村においても同校出身の村農会技手江崎（田口）五十吉（大正12—15年在職）が、『村報』のほとんど毎号に稿を寄せ、技術指導のみでなく、生活改善について提案していることが示すような、活発で広範な活動をしていた。当時各地において山崎を招き、直接的な交際をもった人々は農会関係者、町村当局者、青年団指導者などであった。瀬瀬も彼と「曾知の仲」にあり、教化活動の中で大正10年頃から彼の所論をしばしば引用していることが示すように、村民の状況に適切に対応する教化を担当しうる人物として、彼に期待し、彼を尊敬するようになっていた⁽¹⁾。

瀬瀬は山崎を講師とする恵那郡農会主催の講演会が蛭川村で開かれた大正14年1月に、彼に青年と一般村民のそれぞれに対する講演を依頼した。山崎は廃仏毀釈によって薄らいだ信仰心を厚くするために導入された神国教が、「未だ村民に徹底せぬので信仰の点に遺憾を感じざるを得」ないこと、鉱山が閉鎖され、ダム工事が終って、「残されたのが、射利心とサボル癖とであっては誠に困った事である。今日有志の人が熱心に此点に立て直しを試みつつあるは、尤も至極と首肯せしめ」られたことに留意して講演し、将来多額の収入をもたらすであろう村有林に関しても、「人を向上せしむるも金、墮落せしむるも亦金であるから、……此点に就いて深き注意を促した」。この講演において彼は、「何んと云っても優良村であっただけに、何処かに質実の風が偲ばれ、真面目の性格が認められて、末頼母しく思はれた」という印象をもった。⁽²⁾

講演は瀬瀬にとっても満足のいくものであった。彼はこのとき山崎による村民教化の徹底に期待をかけて、大正14年の秋に全村学校講習会を開催することを思い立ち、山崎の快諾をえた。⁽³⁾ 瀬瀬は当然のことであるが、

「全村学校講習会開催の目的は、我農村自治の改善発達を図り、農家経済の行詰りより脱却して、所謂農村の振興を謀らんとするに在り」と述べ、彼が村民の課題とし、実現にとりくんできた事柄を会の目的として設定した。そして彼が課題の実現に関して最も期待する青年に対して、農村の振興は「元より容易の業にあらずと雖、然かも一度、肉躍り、血湧く処の青年が、意気天を衝くの勢を以て、決然奮起する処あらんか、何ぞ其難きを

憂へんや」と奮起を促した。⁽⁴⁾

全村学校講習会の具体的な開催準備は、蛭川村交親青年団の役員が、稲垣稔、村当局、小学校長などの指導を受けて担当した。役員のうち団長林甲子郎、副団長林有造、幹事西山達造は、稲垣から案内のあった愛知県宝飯郡一宮村における修養団愛知県支部主催の農道講習会（15年1月3－7日）に参加した。そして「真に農に生きんとする若い人達」が主催受講し、山崎が闡明唱道している農民道を理解し、実践への心構えをつくることを主目的とする講習会がいかなるものであるかを実地に体験した。⁽⁵⁾ 全村学校講習会は彼等の体験をふまえて最終的な準備が整えられ、当初の予定よりやや遅れた大正15年1月12－16日に開催された。

開催にあたっては、1月の『村報』に次のような案内文が掲載されるとともに、各団体の役員、村当局者、区長、世務委員などによる出席督励が行われた。⁽⁶⁾

本年早々ノ催シ

一月十二日カラ五日間本村交親青年団、処女会主催デ全村学校ヲ開設スル事ニ成リマシタ故ニ戸主会、婦人会、在郷軍人分会ノ会員ノ御方ハ申スニ及バズ本村ニ住居サレル人ハ全部御出席ノ上御受講相成リ度紙上ヲ借リテ御願ヒ致シマス 以下略

全村学校講習会の概要は次のようであった。⁽⁷⁾

講習会名

瑞穂村全村学校講習会

会場

蛭川尋常高等小学校

主催

蛭川村交親青年団、蛭川村処女会。

後援

恵那郡農会、蛭川村。

講師 演題 主な受講者 〔（ ）内の演題は無題のため筆者がつけたものである。〕

山崎延吉 〔(七貧乏と教育)〕(青年、処女), 「村と自治」(青年、処女, 一般男子), 「農道」(青年、処女), 「時勢」(青年、処女, 一般男子, 婦人, 児童),

「婦人会員に望む」（婦人），「（家庭のあり方と婦人の役割について）」（同），「（創造の重要性について）」（小学校5年以上の児童）。

井口丑二 「現代生活とは何であるか」（青年，処女）。

稲垣稔 「（私の生活信条について）」（青年，処女）。

役員

会長 額額秋三郎（村長），副会長 林一郎（小学校校長），総務 田口専一（助役），理事 田中太郎（郡農会技手） 江崎五十吉（村農会技手） 梶田まち（小学校教員），庶務，会計，応接，衛生，会場，体育兼作業，宿舎，炊事，日報，娯楽の各係は青年と処女が担当。

合宿受講者（小学校において合宿）

青年（15—26才）166名〔内，他町村者 46名（遠山村 26名，笠置村 6名，坂本村 5名，坂下町 3名，武並村 2名，長島町 2名，中津町 加子母村 各1名）〕。処女（15—20才）48名。青年4区，処女1区，計5区に分ける。

持参品

青年 白米2升，会費30銭（村会決議により不足分は村が全額負担），箸，茶碗2個，大根・午茛各1本，鋏1丁，砂背負箱1個，歯磨，手拭，ゲートル，地下足袋，蒲団2枚，大豆1合，芋3合，筆記用具。

処女 労働用具の代りに割烹着，他は青年に同じ。

日程

1月12日

午前8時 昼食持参集合，諸準備，昼食。

午後1時 開会式〔開会の辞（林），君が代斉唱，「教育勅語」と「国民精神作興ニ関スル詔書」の奉読（林），経過報告（田口），訓辞（林），祝辞（井口） 区長任命，閉会の辞（林）〕。

1時半 受講に関する注意と講話 稲垣（青年，処女）。

4時 体操，入浴，食事。

6時 講話 山崎（青年，処女）。感話懇談。

9時 日誌整理。

10時 神仏礼拝，就床。

1月13日

午前5時 起床，美化作業，体操，遙拝。

5時半 講話 山崎（青年，処女）。

6時 食事，静座，「心の力」朗誦。

7時15分 講話 山崎（青年，処女）。

9時半 講話 井口（青年，処女）。

11時半 食事。

12時半 講話 山崎（青年，処女）。

午後2時半 美化作業（青年、処女）。講話 山崎（婦人）。

4時半 入浴，食事。

6時半 ラジオ，感話懇談。

9時半 以後前日に同じ。

1月14日

午前5時 起床，美化作業，遙拝，体操，静座，朗誦，食事。

7時 講話 山崎（青年，処女）。

9時半 講話 井口（青年，処女），山崎（児童）。

11時半 食事。

12時半 講話 山崎（青年，処女）。

午後2時半 美化作業（青年，処女）。講話 山崎（一般男子）。

4時半 以後前日に同じ。

1月15日

午前5時 前日に同じ。

6時半 神国教例祭。

9時半 講話 山崎（青年，処女）。

11時半 食事。

12時半 講話 井口（青年，処女）。

午後2時半 美化作業（青年，処女）。講話 山崎（婦人）。

4時半 入浴，食事。

6時半 講師の慰労会兼茶話会。

9時半 以後前日に同じ。

1月16日

午前5時 前日に同じ。

6時半 日誌整理，感話懇談。

7時半 講話 山崎（青年，処女）。

9時半 講話 山崎（青年，処女，一般男子，婦人，児童）。

10時半 食事。

11時 閉会式〔開会の辞（林），証書授与（頼瀬），会長挨拶，講師訓告（山崎），受講者答辞（杉山孫二郎），弥栄三唱，閉会の辞（林）〕。

11時半 講師見送り，解散。

来賓

1月12日，恵那郡長 河村牧太，恵那郡視学 西尾末吉，恵那郡農会技師 安達三子男，笠置村長 田口久夫，岐阜県農会技手 林寿一，遠山村農会駐在技手 鳥沢義徳，長島町農会駐在技手 三尾広三，苗木町農会駐在技手 加藤清。

視察者

1月13日 石川県羽咋郡南邑知村農業補習学校教員 西塔秀。

全村学校講習会開催を機に山崎を蛭川村顧問とし、全村民が一致共同して農家経済の行詰まりの打開にとりくんだ。この結果大正15年には「一般農作物ニ於テモ相当ナル成績ヲ挙げ又養蚕ノ如キ春以来秋ニ於テモ甚タ養蚕ニ不適當ナル氣候ニアリタルニモ不拘之又一般ニ好成績ノ収穫ヲ得タ」。ところが、「木材ト云ヒ米ト云ヒ繭ト云ヒ本村ノ主ナル生産物カ皆不況ニアルカ為村経済個人経済共ニ甚タシキ行詰リヲ生スルニ到リ」、昭和2年の1戸平均負債額は570円弱（村の粳米価格 1石24円）に達した。⁽⁸⁾ 村当局はこの事態に関して村民に、「斯ル困難ニ遭遇シタルハ天ノ恵ミデアル。徒ニ輕佻浮華ニ流レテ居レバ遂ニ滅亡ノ外無シデアルガ此不景氣ニ依リテ覚醒スルコトガ出来ル」と説き、⁽⁹⁾ 覚醒を促す方法を求めて、全村学校講習会を昭和2年3月27—31日に再度開催することにした。

開催にあたって村当局はさらに出席督励を強化し、区長に対して「本村トシテ最モ有益ノ事業ナルガ故ニ……多数出席聴講セラルベキ様充分御配意相成度シ」と要請し、『村報』により、村民に対して直接に、「戸主在郷軍人会員並ニ壮年者ハ一般男子ノ時ノミナラズ会期中ハ万障繰合セ御聴講相成り度、猶婦人会諸姉ニ於テハ婦人講座ノ時ノミナラズ農村家庭料理ノ発明者、寺田先生ノ御講演ヲ聞ク様多数御出頭ヲ願ヒマス」と要求した。⁽¹⁰⁾

第2回全村学校講習会の概要は次のようであった。⁽¹¹⁾

講習会名、主催、後援は前回に同じ。

講師 演題 主な受講者〔（ ）内の演題は無題のため筆者がつけたものである。〕

山崎延吉 「若き人々への六箴」（青年，処女），「（農村の振興方策について）」（一般男子），「（家庭経済の改善方法について）」（婦人），（児童講話 不明）。

平林広人（農村文化協会理事） 「デンマルク漫談」（青年，処女，一般男子），「デンマルクの家庭」（処女），「（デンマルク人の生活について）」（婦人），「デンマルクの子どもについて」（児童）。

井口丑二 「国体の話」（青年，処女）。

稲垣稔 「愛」（青年，処女）。

寺田幸吉郎 「（燃料の節約について）」（処女）。

役員

会長 瀬瀬秋三郎，副会長 林一郎，総務 田口専一，理事 田中太郎 田口（旧姓江崎）五十吉 梶田まち 林甲子郎（青年団団長）西山達三（青年団副団長），各係は青年と処女が担当。

合宿受講者（農家に分宿）

青年 163名（内、高知県長岡郡 22名、可児郡上之郷村 7名、土岐郡土岐町 同釜戸町 各1名、恵那郡福岡村 4名、同加子母村 3名、同坂本村 同三郷村 同中野方村 各2名、同笠置村 同静波村 各1名）。処女 43名（内、恵那郡中津町 同中野方村 各3名、同三郷村 2名）

日程

3月27日

午前9時 集合。

10時10分 開会式。

11時 受講に関する注意 稲垣（青年，処女）。

11時半 食事。

12時半 講話 井口（青年，処女）。

午後3時 講話 山崎（青年，処女）。

6時 食事，入浴。

7時半 美化作業（青年，処女）。

9時半 日誌整理。

10時 神仏礼拝，就床。

3月28日

午前5時 起床，美化作業，集合。

6時 国旗掲揚，遙拝，体操，静座，「心の力」朗誦，食事。

7時 講話 稲垣（青年，処女）。

9時半 講話 山崎（青年，処女）。

12時 食事。

午後1時 講話 平林（青年，処女），山崎（児童），井口（高知県青年）。

3時 講話 山崎（青年，処女），平林（児童）。

6時 以後前日に同じ。

3月29日

午前5時 前日に同じ。

7時 講話 稲垣（青年，処女）。

9時 講話 山崎（一般男子）。

10時 講話 平林（青年，処女）。

12時 食事。

午後1時 講話 山崎（一般男子）。割烹実習 寺田（処女）。

1時半 美化作業（青年）。

3時 講話 平林（一般男子）。

6時 食事。

7時半 活動写真。

9時半 以後前日に同じ。

3月30日

午前5時 前日に同じ。

7時 講話 井口（青年，処女）。

10時 講話 山崎（青年，処女）。

12時 食事。

午後1時 講話 平林（婦人），山崎（青年，処女）。

3時 講話 山崎（婦人），平林（青年），寺田（処女）。

6時 食事。

7時 茶話会。

9時半 以後前日に同じ。

3月31日

午前5時 前日に同じ。

7時 講話 稲垣（青年，処女）。

8時 講話 井口（青年），平林（処女）。

10時 講話 山崎（青年，処女）。

12時 食事。

午後1時 講話 平林（青年，処女）。

2時半 閉会式。

来賓

3月28日 恵那郡坂下町町会議員 吉村繁治郎 山内松之助 西尾重太郎 古井乙吉 原政太郎⁽¹²⁾，益田郡下呂農業補習学校助教諭 高橋頼逸，益田郡下呂町役場吏員 黒木徳一，同町町会議員 斉藤秀夫，内藤岐阜県農会技手。

3月29日 恵那郡笠置村村長 田口久夫，同村農会寺田技手，恵那郡農会技手 大場三造。

視察者

3月27日 鳥取県西伯郡崎津村 石橋浩，兵庫県立上郡農学校校長 田村有年，可児郡上之郷農業補習学校教諭 細野駿造。

3月29日 加茂郡蘇原村村長 各務芳郎，同村村会議員 横家伸吉 山口順三郎 鈴木熊太郎 大坪方次郎，蘇原小学校教員 今井薫 平野民二郎，同村切井青年団員 13名，恵那郡加子母小学校教員 田口稔，同村青年団員 3名。

注

(1) 吉地編 前掲書 128頁。

(2) 同上。

(3) 同上。

(4) 『村報』 第49号 大正15年2月25日。

- (5) 『済美』 第20号 1頁。吉地編 前掲書 215頁。『農道講習会日報』稲垣氏蔵。
- (6) 『村報』 第48号 大正15年1月15日。
- (7) 『瑞穂村全村学校講習会日報』、『瑞穂村全村学校講習会記念写真帖』 板津時三氏蔵。
- (8) 『村報』 第49号 大正15年2月25日、第59号 大正15年12月25日。吉地編 前掲書 319頁。
- (9) 『村報』 第60号 昭和2年1月25日。
- (10) 「昭和二年三月二十四日区長会要項」(『綴』)。『村報』 第62号 昭和2年3月25日。
- (11) 『瑞穂村第二回全村学校講習会日報』 板津氏蔵。『済美』 第20号。
- (12) 坂下町史編纂委員会編『坂下町史』岐阜県恵那郡坂下町 昭和38年 409頁。